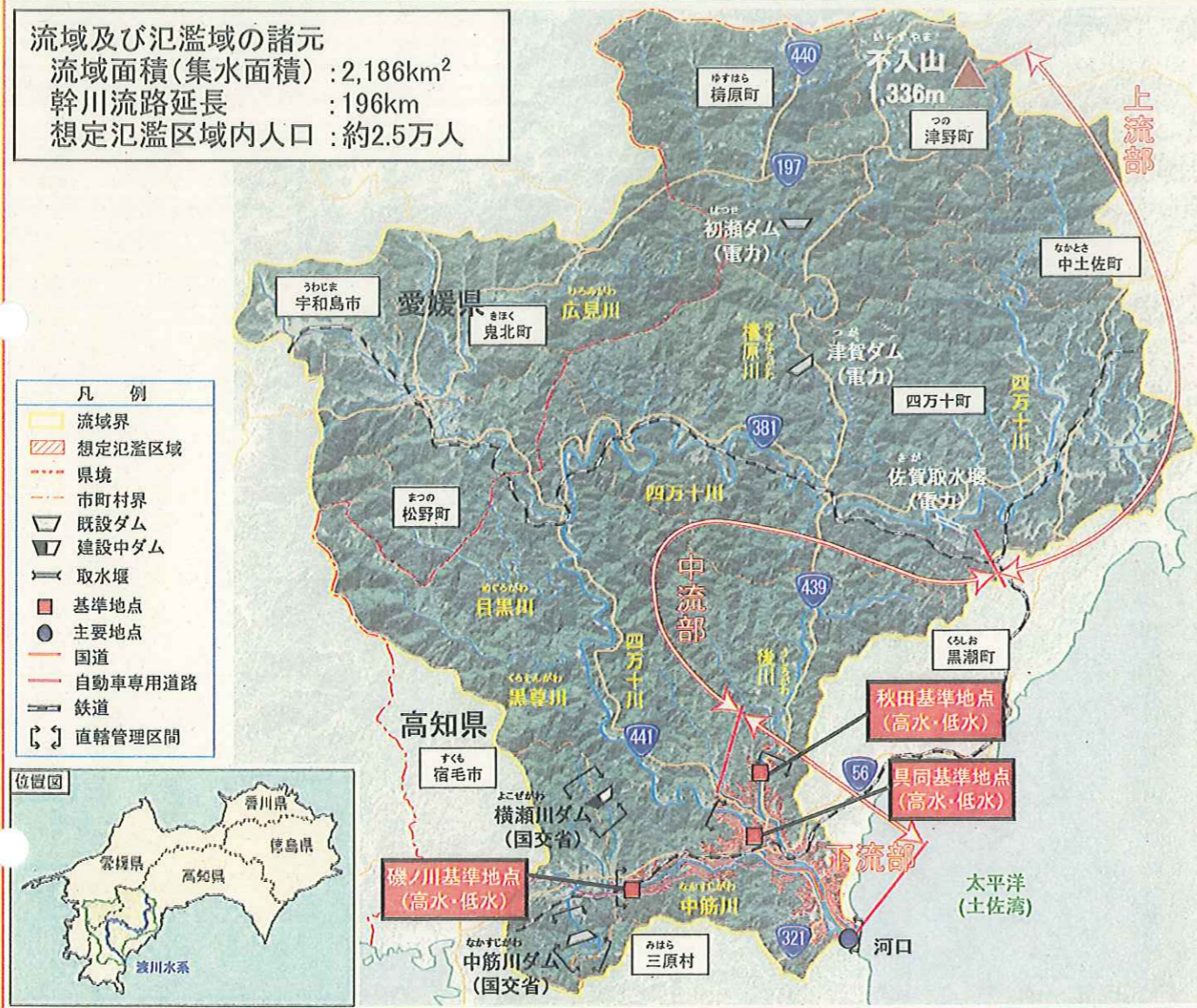


渡川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

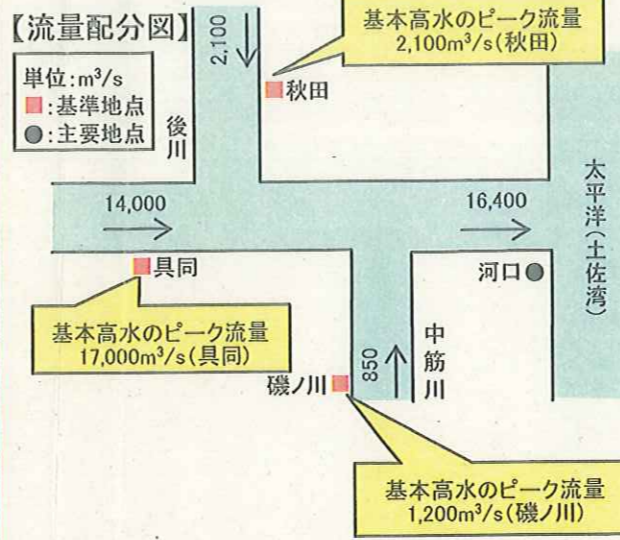
- 年平均降水量は約2,900mmで、全国平均(約1,700mm)の約1.7倍。全国でも有数の多雨地域
- 流域の約95%を山地が占め、本川下流部と支川(後川と中筋川)のわずかな平地に人口・資産が集中。後川や中筋川は低平地を流れ、洪水時に本川水位の影響を受け内水被害が発生しやすい
- “日本最後の清流”と言われており、四万十川そのものが観光資源となっており、四万十市では年間約86万人もの観光客が訪れる

流域及び氾濫域の諸元
 流域面積(集水面積) : 2,186km²
 幹川流路延長 : 196km
 想定氾濫区域内人口 : 約2.5万人



災害の発生防止又は軽減

- 既定計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に、基本高水のピーク流量を、四万十川では基準地点具同で17,000m³/s、後川では基準地点秋田で2,100m³/s、中筋川では基準地点磯ノ川で1,200m³/sと設定



- ・洪水調節については、四万十川では既存施設の有効活用等により対応を検討し、実施。中筋川では、既存の洪水調節施設に加え、新たな洪水調節施設を整備
- ・中筋川では水位低下を図るため、河道掘削及び洪水調節施設の整備を行うとともに、背割堤の延伸について、その効果や環境上の影響等を検討。
- ・関係機関と連携・調整の上必要に応じて排水機場の整備などの内水対策を実施
- ・東南海・南海地震に対して、津波遡上により浸水被害が想定される水門の耐震補強、ゲート操作の自動化・高速化を実施
- ・河口部では高潮対策を実施



河川環境の整備と保全

- 四万十川上流部では、アマゴやモクズガニ等が生息・繁殖する自然豊かな溪流環境の保全に努める
- 四万十川中流部では、アユカケやテナガエビ等が生息・繁殖する瀬・淵環境等の良好な河川環境の保全に努める
- 四万十川下流部では、アユの産卵場となる瀬、ヨドシロヘリハンミョウ等の昆虫類やハクセンシオマネキ等の生息・繁殖環境となっているヨシ帯や干潟環境の保全に努める。また、アカメ等の仔稚魚の生息場となっているコアマモや四万十川を代表する水産資源であるスジアオノリの生育環境の保全等に努める
- 後川では、ヒナインドジョウ等の魚類の生息・繁殖環境である瀬の保全に努める
- 中筋川では、セスジイトンボ等が生育・生息・繁殖する湿地環境の保全に努める



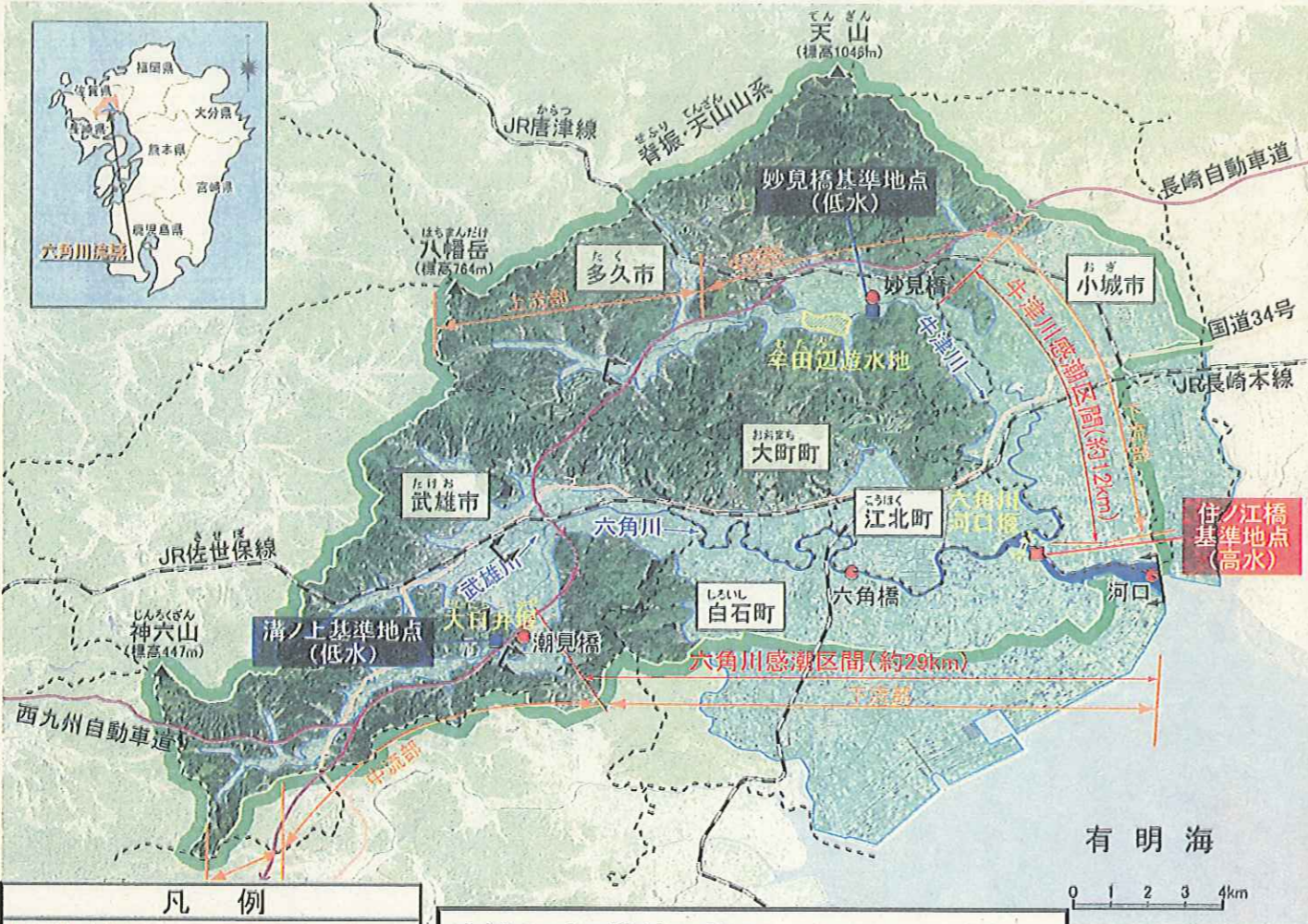
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 四万十川においては、広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する。後川においては、広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める。中筋川においては、水資源開発施設の整備や既存施設の有効活用を図るとともに、広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する
- 具同地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期概ね14m³/s、非かんがい期概ね9m³/sとする
- 秋田地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期概ね0.4m³/s、非かんがい期概ね0.3m³/sとし、以って流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする
- 磯ノ川地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期概ね1.2m³/s、非かんがい期概ね0.7m³/sとする

六角川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 有明海の湾奥に位置し、軟弱地盤の低平地を流れ、感潮区間が約29kmまで及ぶ日本有数の緩流蛇行河川。河床には有明海特有のガタ土が堆積
- 下流部は低平地であることに加え、有明海特有の干満差による潮位の影響により、一度氾濫すると湛水が長期化するとともに、内水被害が発生しやすい
- 年平均降水量は約2,000mmで全国平均(約1,700mm)の約1.2倍



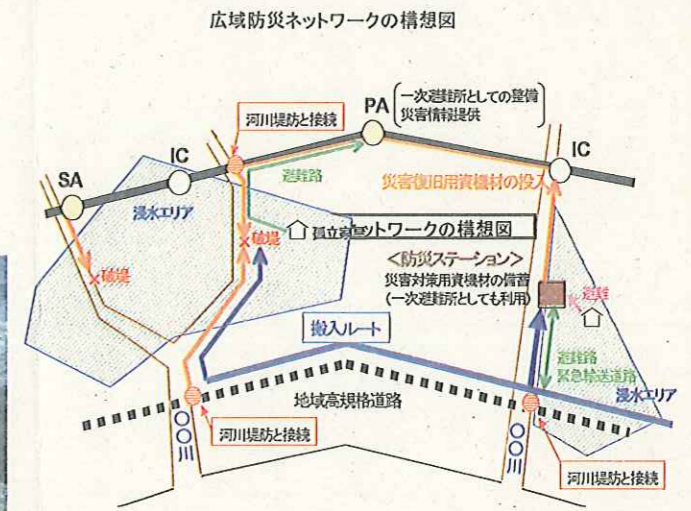
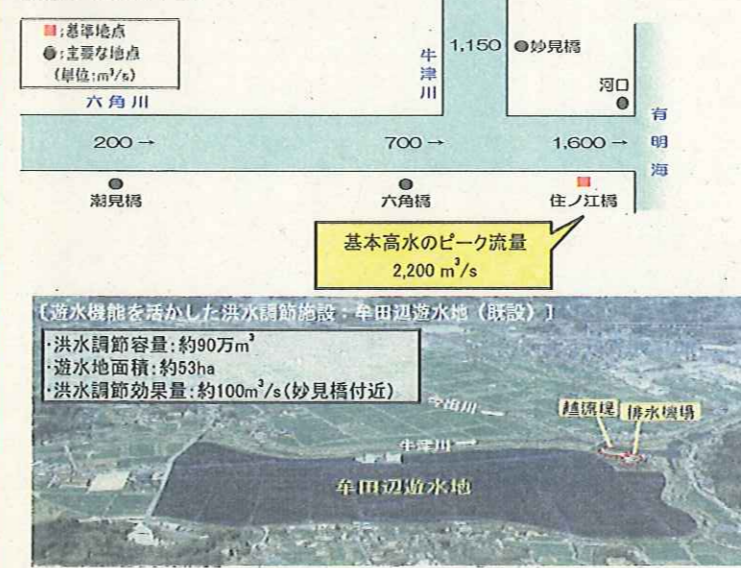
凡例	流域及び氾濫域の諸元
流域界	流域面積(集水面積) : 341km ²
鉄道	幹川流路延長 : 47km
高速道路	想定氾濫区域内人口 : 約11万人
国道34号	
直轄管理区間	
想定氾濫区域	
市町村界	
既設遊水池	
基準地点	
主要な地点	

災害の発生防止又は軽減

■ 既定計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等により総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に、基本高水のピーク流量を基準地点住ノ江橋で2,200m³/sと設定

- 洪水調節については、遊水機能を活かした洪水調節施設による対応を図るとともに、内水ポンプの運転調整による対応を検討。内水氾濫常襲地域であることを踏まえ、ポンプの運転調整の検討に合わせて、家屋の嵩上げ等の内水被害を最小限にとどめるための流域対策を検討。
- 下流部は、低平地が広がり高潮被害を受けやすい地形であるため、防潮機能を有する河口堰の適切な運用を図るとともに、堤防の拡築等の対策を実施する
- 有明粘土層の超軟弱地盤が広く分布しており、地震による堤防の滑り破壊等の施設被災の恐れがあるため、堤防の耐震対策等を実施
- 洪水等による被害を極力抑えるため、防災拠点の整備を図るとともに、河川堤防や高規格道路等をネットワーク化し、復旧資材の運搬路や避難路を確保するための広域防災ネットワークの構築に向けて、関係機関と連携・調整しながら地域一体となって取り組む

【流量配分図】



河川環境の整備と保全

- 六角川中・上流部では、オイカワやカワムツ等が生息・繁殖する瀬・淵、サギ類等の休息場等となる河畔林の保全に努める。
- 牛津川中・上流部では、オイカワ等が生息する瀬・淵、サギ類の休息場等となる河畔林等を、治水面との調和を図りつつ可能な限り保全に努める。
- 六角川下流部及び牛津川下流部では、治水上可能な範囲でヨシ原等の保全に努める。エツ等の有明海特有の魚類やギンブナ等の淡水魚が混在して生息・繁殖する汽水域、ハラグレチゴガニ等が生息する干潟、オオヨシキリの繁殖場等となっているヨシ原、稚魚の成育場となっている江湖(えご)等の保全に努める。
- 六角川河口部では、ムツゴロウ等が生息し、カモ類等の渡り鳥の中継地・越冬地である干潟等の保全に努める。



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域かつ合理的な水利利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める。
- 六角川溝ノ上地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期で0.26m³/s、非かんがい期で0.10m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利利用、河川環境の保全等に資するものとする。
- 牛津川妙見橋地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、通年0.41m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利利用、河川環境の保全等に資するものとする。